

『あなたに言うておきます』(ルカの福音書 22 章 31-34 節) 2022.4.10.

<はじめに> 前回はイエスが自分自身の十字架と復活を予告して語られた箇所を開きました。今回はさらに時が進んで、「最後の晩餐」の絵でも知られる席上でのエピソードです。十二弟子の筆頭と目されるシモン(=ペテロ)に関して、予め語られたイエスのことばです。

「あなた(がた)に言います」をイエスは頻繁に使われます。マタイ 46 回(+3)、マルコ 13 回(+1)、ルカ 35 回(+4)、ヨハネ 21 回(+5)です。隠された天的/靈的真理を開示されたり、将来起こり来る出来事を予見するときに使われています。これを見つけたら、襟を正して聞かねばなりません

I 「知らない」と言うペテロ

①三度、知らないと(34)

欄外中の直訳は「今日、あなたがわたしを知らないと三回言うまで、鶏が鳴くことはありません」です。鶏が鳴くのは、大体いつ頃でしょうか。「あなたがわたしを知らないと三回言う」は、シモン・ペテロにとって素直に受け取れるものだったでしょうか。

②このことばの経緯(31-33)

直前の 33 節でペテロは「覚悟はできております」と勇ましく宣言します。彼がそう言い切ったのはなぜでしょう。イエスが彼にかけられた 31-32 節のことばの中に、ペテロが気になったであろうところを見つけてください。

③その後のペテロは(54-62)

このやり取りの後の物語で、ペテロは告白どおり覚悟はできていたでしょうか。イエスと一緒にいましたか。彼は何を恐れて、イエスのことを「知らない」と言ったのでしょうか。主のことばを思い出すきっかけは何でしたか。彼が気付けばよかったのは、どこだと思えますか。

II あなたに言うておきます

①ふるいにかける者がいる(31)

イエスは何を見なさい、と指さしておられるのでしょうか。「麦をふるいにかける」のは何のためですか。このような状況を彼らはすでに見ている、とイエスは言われます。それはどんなことですか。14-23 節、ヨハネ 13:21-30 から見つけてください(ルカ 22:3、ヨハネ 13:2)。この世界には、私たちを誘惑し、道から逸らせて、挫折させようと躍起になって働いているサタンがいます。今の時代は、彼が暗躍し、神が造られた人を狂わせようとしています。

②あなたは自分を知らない(33)

「主よ。あなたとご一緒なら…」とペテロは言いましたが、そこをサタンは狙いました。主と一緒にいることを恐れ、告白することをためらう自分に、彼自身が気付いていません。この告白が嘘だったのでしょうか。自分の思い描く理想的な状況なら、問題なくそのように歩めたでしょう。しかし、イエスが捕らえられ、殺されそうになると、途端に不安になりました。イエスが何度も予告されていた状況なのに、そうはなるまい、と受け取っていません。

③わたしはあなたのために祈りました(32)

またしても「しかし」とイエスは言われ、先回りされます。信仰が揺さぶられ、不安になり、歩みがおぼつかなくなったとしても、「信仰がなくならないように」祈りをもって支えしてください。イエスの確信は、このことばのどこに表されているでしょう。「祈っています」と「祈りました」には、どんな違いがあるでしょうか。イエスは、ペテロのために祈ったのですが、それはなぜでしょうか。他の弟子たちはこれを聞いてどう思っていたでしょう。イエスがすべての人に同じことはできません。先に受けた者が次に与えることで、全体に同質のものを分ち与えることを願っておられます。

<おわりに> 主のことば、聖書は、私たちの生きている世界がどんなところで、どんなことがあるのか、そこに生きる私たちは何者で、何に心して歩むことが必要か、そしてこの世界を治めるイエスがおられ、私たちのために祈り、支え、関わり続けてくださっていることを示します。私たちは、理解や記憶に至るかどうかはさておいて、まず主のことばを聞く機会を持たねばなりません。主はそれを思い起こさせる鍵を与えておられます。五感すべてを働かせて、主が私に語られていることを受け留め、アーメン(=そのとおりです)と受け取りましょう。(H.M.)